

## 実践報告

# 新型コロナウイルス感染症流行下における老年看護学実習の検討 — 「地域で暮らす高齢者への看護」を学ぶ学内代替実習プログラム —

Practical Training of the Geriatric in COVID-19 pandemic  
— Nursing for Community-Dwelling Elderly —

記村 聡子<sup>1)</sup>, 梅垣 弘子<sup>1)</sup>, 廣瀬 忍<sup>1)</sup>

Kimura Satoko<sup>1)</sup>, Umegaki Hiroko<sup>1)</sup>, Hirose Shinobu<sup>1)</sup>

### 抄 録

2020年度の新型コロナウイルス蔓延の影響により、従来、介護老人保健施設・介護老人福祉施設で行っていた看護学実習を学内実習に切り替える必要が生じた。本稿では、地域で暮らす高齢者への看護を学ぶ実習科目「老年看護学実習Ⅱ（4年次前期）」の代替実習について報告する。学内実習では、新型コロナウイルスの蔓延が地域で暮らす高齢者に及ぼす影響に焦点を当て、学生が地域の課題に対して感染対策や健康教育を検討する内容とした。本プログラムの特徴は、問題解決能力を養うための学習教材の選定と、高齢者あるいは、高齢者を取り巻く専門職の行動変容を導く「伝える力」の育成にある。今後は、学生の学びを分析し実習プログラムを評価することが必要と考える。

キーワード：学内代替実習、老年看護学、看護教育

## I. はじめに

新型コロナウイルスの全世界的な感染拡大を受け、2020年3月にはWHOがパンデミックに相当すると認定した。日本においても同年4月に緊急事態宣言が発出されることになり、大学における教育活動も大きな影響を受けた。特に、看護系大学では、指定規則に定められている、臨地実習科目の開講が大きな課題となった。厚生労働省は、医療関係職種等の各学校、養成所及び養成施設に対して実習の弾力的な運営を認める方針を示され<sup>1)2)</sup>、本学でも実習の在り方について検討を重ねた。2020年6月から7月にかけて高齢者介護施設で実習を行う「老年看護学実習Ⅱ」は、地域（高齢者介護施設を含む）で生活する高齢者と、高齢者を取り巻く社会資源について学ぶことを目的に高齢者介護施設で実習を展開しており、臨地で実習することは難しい状況であった。看護系大学には、学生が

臨地で安心して実習を受けることができるように環境を調整し、教育の質を担保する責務がある。一方で、高齢者の感染の機会を減らすこと、高齢者介護施設とそこで働くスタッフ・地域スタッフの感染の機会を減らすこと、そして看護学生を感染から守るという責務も有しており、この度は感染リスクの低減のために、学内実習に代替することが最善と判断した。

本稿では、「高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けるための看護」学ぶ学内実習プログラムについて報告する。

## II. 検討課題

代替実習プログラムの作成は、学習教材の選定から開始し、育てたい能力、その方法の順に検討を進めた。

<sup>1)</sup>四條畷学園大学看護学部 Faculty of Nursing, Shijonawate Gakuen University

## 1) 学習教材としての新型コロナウイルス

代替プログラムを検討するにあたり、新型コロナウイルスの蔓延する状況だからこそ学べること、学ぶべきことは何かを考えた。プログラムの検討を開始した時期には、すでに新型コロナウイルスの感染は急激に拡大し、各地の高齢者介護施設、デイサービス事業におけるクラスターが報道されている状況であった。新型コロナウイルスは感染力が強く、「デイサービス事業での密な環境の回避が難しい」「認知症の利用者へのマスク着用の徹底が難しい」など、高齢者を支える事業所の抱える困難感は大きかった。結果として、デイサービス事業を中止する事業所が増え、利用者への影響が推察された。同様に、高齢者の入居する施設では「感染を持ち込まない」「拡げない」ことの難しさを感じていた。また、施設ではディスプレイ手袋やマスクなどの衛生材料が不足しており、感染対策に苦慮している現状も見聞した。そこで、これから看護師としての活躍を期待する学生に対して、新型コロナウイルス感染症の蔓延する現状そのものを学習教材とし、高齢者・高齢者介護施設に及ぼす影響とその支援について学びを深めることにした。

## 2) 育成したい能力

本科目では、病や障がいと折り合いをつけながら地域・高齢者施設で生活する高齢者への支援を学ぶことに在り、看護学教育モデル・コア・カリキュラムの「地域包括ケアにおける看護実践:様々なライフサイクル、健康レベルにある人々への住み慣れた地域での健康支援の必要性について説明できる」に該当する<sup>3)</sup>。看護学生が地域に出向く意味は大きく、学生はコミュニティから様々なことを学ぶ。しかし、今年度は臨地実習を経験できず、同等の学びを保証することが極めて難しく、「学内実習の代替」と捉えるより、「コロナ禍だからこそ学べることは何か」に教員の発想を転換することが必要であった。そこで、この科目では「新型コロナウイルス感染の蔓延による高齢者の暮らしに及ぼす影響」を学習教材とし、病や障がいを有する高齢者への予防看護の能力を育成することにした。

次に、健康支援を展開するための能力として、行動変容を促す技術の習得が必要と考えた。筆者

は、「高齢者を対象とした健康教育」のプランニングから実施・評価までを行う授業展開を行った経験がある。学生は、四條畷市民に対し「熱中症予防」「運動教育」を実施する中で、健康支援に取り組むことの重要性、楽しさ、難しさを学ぶことが出来た。健康教育は実施することが目的ではなく、その先の「適切な情報が伝わること」、それを日々の生活に取り入れ「継続すること」、つまり行動変容が重要である。そこで、この1単位の授業の中では、「伝える技術」の習得に焦点を絞り、実習内容を検討した。

そして、情報リテラシー能力を高める必要性もあった。新型コロナウイルスの蔓延する中、社会には様々な情報が溢れており、人々の不安を助長する結果となった。そこで、本実習では、グループで決めた課題に関して、インターネット、新聞、ニュースなどの媒体から情報を収集し、どれが確かな情報なのかを判断しながら活用する力を身につけたい。そして、例えばパブリックなデータではなくても、見落としは避けられないデータの存在を知って欲しい。

この度、教材とするインタビュー動画は、看護師・保健師が個人の経験をもとに語るローカルな内容であるが、リアリティのある当事者の意見として、学生は心を揺さぶられ、「看護学生として何かできることはないか」と考えるきっかけになるのではないだろうか。そして、この経験は、当事者の意見に耳を傾け、1つ1つの意見に価値を見出すことのできる力の醸成につながることを期待している。

## 3) 方法

現場のリアリティを知る方法として、地域や施設で活躍する看護師・保健師によるオンデマンド講義を選択した。当時は、まだ、双方のインターネット環境が整っていないこともあり、教員が「新型コロナウイルス感染拡大による、高齢者の暮らしへの影響」「施設としての感染対策の取り組み」「見えてきた課題」についてインタビューを行い、その様子を動画撮影することにした。

学生が健康支援を行う方法は、グループで1つの健康支援動画を作成することにした。動画作成のプロセスは、健康課題の明確化、対象者の選定、支援目標、具体策の順に進み、具体策では、動画時間

の設定や、伝わりやすさの工夫などを検討する。

### Ⅲ. プログラムデザイン

#### 1) 対象科目

老年看護学実習Ⅱ

4年次生前期開講、必修科目 1単位

#### 2) 履修生

約70名

1グループ3～4名で活動する。

#### 3) 実習期間

2020年6月1日(月)～7月24日(金)の5日間

#### 4) 実習概要

今般の新型コロナウイルス感染症により、高齢者介護施設、医療機関等は大きな影響を受けている。多くの高齢者が集団で生活している高齢者介護施設では、多数の利用者に同一の職員がケアを提供していることが多く、感染が拡大しやすい環境にある。また、感染した際に重症化するリスクの高い高齢者が多く、施設における感染対策は必須となる。しかしながら、新型コロナウイルスの蔓延を防ぐことは非常に困難な現状もあり、実際に複数の施設でクラスターが発生している(2020年3月11日WHOがパンデミックを宣言)。そこで、この実習では老年看護の視点から、高齢者は「感染弱者」として位置づけられていること、そして感染が高齢者の生活に及ぼす影響を理解することを目的としている。そして、施設職員がどのようなことに困難を感じ、どのように乗り越えようとしているのか、実際の語りを聴くことにより、感染対策の現状とそのため多職種連携の実際について知る機会とする。

上記をふまえ、高齢者および施設職員等に対し、看護学生として何ができるのかを考え、実践することを実習内容とする。

#### 5) 実習目的・目標

- ①「感染弱者」としての高齢者の存在を理解する。
- ②感染が地域および介護施設で暮らす高齢者の生活に及ぼす影響を理解する。
- ③高齢者介護施設に必要な感染対策を理解する。

- ④高齢者もしくは施設スタッフを対象とした感染対策や健康教育の実施ができる。
- ⑤感染症の蔓延する現状を通し、地域住民や多職種等と協働し、豊かな地域社会の構築を担う高齢者看護の役割について考えることができる。

#### 6) 実習方法

新型コロナウイルス感染症の蔓延する状況が、地域(施設を含む)で暮らす高齢者に及ぼす影響を理解し、健康支援動画を作成する。支援対象は高齢者もしくは施設スタッフとする。作成した動画を用いてプレゼンテーションを実施する。

実習は、事前学習に始まり、実習期間中に次の第1～5段階のステップを踏む。

第1段階：課題の明確化

第2段階：健康支援計画の立案

第3段階：健康支援動画の作成

第4段階：動画を用いた健康支援プレゼンテーションの実施(実習5日目)

第5段階：学びの振り返りとまとめ(事後学習)

#### 事前課題

事前に、次の2点に取り組むよう課題提示する。

- ①厚生労働省「高齢者介護施設における感染対策マニュアル 改訂版」(2019年3月)<sup>4)</sup>を読み、a.感染からの保護・免疫機能を中心に高齢者の「安全な環境を維持する」能力と、b.高齢者介護施設における感染対策の基本についてまとめる。次に、高齢者介護施設における新型コロナ感染症対策を調べ、感染弱者である高齢者に対し、生活を支えるサービスがどのような対策を取り、高齢者の暮らしを支えようとしているのかを調べる。
- ②新型コロナウイルス感染症の蔓延が高齢者に及ぼす影響  
このテーマに関してできるだけ調べ、その感想を記す。その時に調べた資料(新聞、ニュース、報告書など)を印刷し添付する。

#### 実習第1段階：課題の明確化

高齢者施設で働く看護師(老人看護専門看護師)1名、地域包括支援センターで働く保健師1名の協力を得て作成したインタビュー動画を視聴する。

教員がそれぞれの職場に出向き、「新型コロナウイルス感染拡大による、高齢者の暮らしへの影響」「施設としての感染対策の取り組み」「見えてきた課題」についてのインタビューを行った。

施設看護については、山本恵氏（株式会社ハートケア 運営管理部、老人看護専門看護師）の協力を得た。山本氏には施設管理の視点から感染対策について説明いただいた。そして、デイサービス等の通所系サービスを利用できなくなった高齢者の様子、施設スタッフの困惑など幅広い内容の話をしていただくことができた。

地域で暮らす高齢者への看護については、大野原ひとみ氏（四條畷第1地域包括支援センター 保健師）の協力を得た。早い段階から徹底した感染対策に取り組み、外出を制限している高齢者の訪問を行なっていること、そして、地域包括支援センターの機能を止めることなく活動が継続できていることについて話していただいた。外出制限をしている高齢者の身体面、精神面のフォローのために、地域で活躍する専門職等と活動した実践事例など、地域のシステムづくりについての具体的な話をしていただくことができた。

次に、新型コロナウイルス感染症が高齢者に及ぼす影響について学生間でディスカッションを行い、グループで取り組む課題を決定する。ディスカッションテーマは、「施設で暮らす高齢者」「在宅で暮らす高齢者」「通所サービスを利用する高齢者」のいずれかから対象を選択する。

#### 実習第2段階：健康支援計画の立案

課題に対する支援を検討し、各グループで、下記aもしくはbのどちらかを選択する。動画を用いた健康支援の実施計画を立案する。動画は10分程度とし、そのシナリオを作成する。

a 高齢者もしくは施設スタッフを対象とした感染対策や健康教育に関する動画の作成

b 高齢者へのアクティビティ動画の作成

#### 実習第3段階：健康支援動画の作成

動画を作成する。これまでは巷に溢れる情報を精査し、適切に使いこなすことを求めていたが、ここでは、学生は「発信する側」の立場になる。その認識を持ち、正しい情報を適切に用いているか、誤解を生じることのない表現になっているか確認が必要である。

#### 実習第4段階：動画を用いた健康支援プレゼンテーションの実施（実習5日目）

まとめの会として動画のプレゼンテーションを行う。

プレゼンテーション内容は、作成の意図や作成したツールのセールスポイントなどを具体的に挙げる。そして、わかりやすく伝わるプレゼンテーションができるよう工夫する。

プレゼンテーションの運営（資料準備、司会進行、後片付け）は、学生間で協力して行う。

#### 実習第5段階：学びの振り返りとまとめ（事後学習）

本実習の学びを通して、「地域住民や多職種等と協働し、豊かな地域社会の構築を担う高齢者看護の役割」について、各自でレポートする。

## IV. 本プログラムの特徴

### 1) 「問題解決力」を養う学習教材の選定

問題解決力を養うための題材として、「すでに起きている問題」「課題が明確に見えていること」、この2点を念頭に置きテーマを検討した結果、この度の実習では、新型コロナウイルス感染症の地域（施設を含む）で暮らす高齢者に及ぼす影響を学習教材として学内実習プログラムを作成した。2019年度の緊急事態発令前後から現在に至るまで、社会には新型コロナウイルスに関する情報が溢れ、高齢者に対する課題も報告されていた。老年看護学実習Ⅱの実習施設である高齢者介護施設には、感染に対する抵抗力の弱い高齢者が集団で居住しているため、感染が広がりやすい傾向にある。高齢者介護施設における「感染経路の遮断」では、病原体を持ち込まないこと、病原体を持ち出さないこと、病原体を拡げないことへの配慮が必要であり<sup>5)</sup>、この度の新型コロナウイルス（COVID-19）では、飛沫感染、接触感染に加え、エアロゾル感染も示唆されており、その対策を困難にしている。潜伏期間は1～14日（平均5～6日）、発症のおよそ2日前から発症後7～10日までは、他者へ感染する可能性のある期間とされている。そして、新型コロナウイルス感染の無症候者も感染力を持つと報告されており<sup>6)</sup>、高齢者施設での感染管理を困難にしている。高山医師ら<sup>7)</sup>は2020年3月16日に「高齢者施設における新型コロナウイルス感染症への対応指針」をホームページで開示して

おり、その迅速な対応からも高齢者施設における感染管理の難しさと、社会的深刻な状況が伺える。この度、学習教材として協力いただいた看護師・保健師から、前記の対応指針を用いて看護職が感染管理対策の役割を担っていることが語られた。それでも、現場では「認知症の方にマスクをしていただくのが難しい」「介護が必要な高齢者との距離を十分に開けることが難しい」「マスクをしては、互いの表情が見えにくいため、高齢者が不安に思う可能性がある」などの直接ケアする場での困難、「私が感染を持ち込んでしまったらどうしよう」「自宅に感染を運んでしまったらどうしよう」などの感染の媒介者となることへの不安など、様々な課題が溢れていた。このような現場の具体的な課題、専門職の悩みを聞くことは、学生が当事者意識を持ち、課題解決に取り組む「きっかけ」として重要であると考えられる。

そして、地域で暮らす高齢者にも目を向けなくてはならない。日本の高齢化は進展し、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築実現に向け、各市町村が取り組み多くのモデル例が報告されている<sup>8)</sup>。老年看護学実習Ⅱの実習受け入れ施設が多く位置する四條畷市でも、地域包括ケアシステム構築への第1歩として、地域の通いの場作り、生活支援コーディネータ（地域支え合い推進員）の活動、介護予防に向けた取り組みなど、多岐にわたる取り組みがなされている<sup>9)</sup>。大学の位置する大阪府大東市でも、住民が気軽に足を運び、集う場として住民が空き家を利用して活動する、お茶のみ休憩所「いこか」の活動が報告されている<sup>10)</sup>。学生は、これまでの講義で地域包括ケアシステムについて学び、特に2年次のデイサービスを中心とした実習では、高齢者との関わりをとおして人々の「健康」や「暮らし」への思い、人々がつながる地域作りの重要性について学んでいる。

しかし、地域包括支援センター保健師の語りでは、高齢者への不要不急の外出制限が、脚力などの身体機能が低下、他者との交流が持てないことによる精神面、認知機能面への影響が懸念される。筆者が見聞する中でも、感染への恐怖から、高齢

者自身から家事支援や身体介護など訪問系のサービスを断るケースも少なくないことが明らかになった。これまで築いてきた「人が人を気にかけて、見舞うという」民生委員を中心とした「高齢者の見守り活動」、住民活動の継続が難しくなっている。つまり、この新型コロナウイルス感染症の蔓延が高齢者に及ぼす影響を学習教材にすることは、学生が物事を批判的に捉え、新たな課題発見・解決する能力の育成が期待できる。

## 2) 行動変容を導く「伝える力」の育成

本プログラムでは、動画という伝達方法を用いて高齢者への健康支援ができることを目標としている。高齢者はこれまでの生き方、暮らし、価値など多様な人となりをも有しており、健康支援を行う看護師は個と向き合い、高齢者とともに課題の明確化、目標の設定を行なっていくことが望ましい。この度は、動画を用いた一方向の情報発信になるため、より、この健康支援を必要とする意味、対象、目標の設定、内容や伝え方の検討が必要になる。多くの学生は、「伝えること」に精一杯で、実践がもたらす効果にまで目を向けることができないだろう。だからこそ、教員が行動変容を導く意味とその難しさを語らなくてはならない。マーガレット・ニューマン<sup>11)</sup>は、看護の使命一人間の健康体験そのものへのケアリング—潜在している隠された秩序は、変容を生み出すパターンである。そのパターンが開示される過程で、私たちはその変容を生み出す寄り添いとして存在すると述べている。この度のような一方向での情報発信においては、高齢者が受けている新型コロナウイルス感染拡大の影響に向きあい、学生という立場から何ができるかを考え、真摯に取り組む姿は、高齢者にとっての「寄り添い」となることに気づける、そこにゴール設定を置くのが妥当であろう。

そして、高齢者の健康支援において、上手な教え方・伝える力が必要だ。伝える力は学習により身につくため、本実習では、プレゼンテーションという能動的学習をとり入れた。向後<sup>12)</sup>は、教えるためには、自分がよくわかっていることが必要であること。そして、教えることは手間もかかるし面倒なことかもしれないが、教えている途中で新しいアイデアが浮かぶかもしれないし、どの

ように教えたら、相手が早く簡単にわかってくれるだろうかなどと教え方を工夫することもあると述べている。今後は、プログラム評価としてのアウトカム評価を行うとともに、「教える力」「伝える力」の成長を学生自身が評価できる仕組みを検討していく予定である。

## V. 継続リサーチの必要性

本プログラムを作成し、実習を開講してから1年経過しているが、まだ、新型コロナウイルスの終息が見えない状況である。当時は、高齢者を「感染弱者」の視点から捉え、支援対象としていたが、地域では新たな活動が生まれ始めている。四條畷市の生活支援コーディネーターが発行する新聞には、高齢者自身の言葉で、新型コロナウイルス感染拡大防止のために全てのイベントや会議が中止になり、高齢者が毎日不安な日々を過ごしていること、それでも自分達のアイデアを持ち寄り、支え合いながら生活していると書かれている<sup>13)</sup>。住民たち自身が、コロナ禍でもできる活動を考え、弊害を最小限にしようとしていることがわかる。レイ・オルデンバーグ<sup>14)</sup>は、このような「サードプレイス」とは、コミュニティがその真価を発揮し、人々が他のどこよりも自然体でいられる集いの場であると述べている。そして、その特徴は訪れる客達の差別を無くして社会的平等の状態にする役目を果たし、その場所の中では、会話が主な活動であるとともに、人柄や個性を披露し理解するための重要な手段となると述べている。この度の危機的状況において、日常的に作ってきた人と人とのつながる場作りの真価を発揮しているのではないだろうか。住民間のつながりが希薄になりがちな現代において、このようなサードプレイス作りには看護師としてどのように参画していくのか、非常に重要な課題である。学生が地域に関心を寄せ、継続してリサーチ・支援する必要性に気づくような働きかけが必要だ。

その他にも、高齢者を支援する新たな取り組みとして、ZOOM ミーティングを活用した高齢者との面談で、高齢者のメンタルヘルスの維持に繋がった報告がある<sup>15)</sup>。外出制限中でも高齢者が友人や家族とのつながりを維持すること、社会的孤立を防ぎ、他者とのつながりを続けるための手法とし

て、毎日の安心を提供する電話、電話診療、オンライン会議などの様々な支援が加速度的に進化したという見解もある<sup>16)</sup>。本実習では、感染拡大による影響に注目したが、今後は、地域で暮らす高齢者支援の課題と成果を集積し、Society5.0 社会の実現に向け、人による支援とIoTの活用とを組み合わせ合わせた支援について、学生とともに語り合う機会を持ちたいと考えている。

今後は、学生の学びを分析し実習プログラムを評価することが必要と考えている。

なお、本論文に関して、開示すべき利益相反関連事項はない。

## 文献

- 1) 厚生労働省「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う医療関係職種等の各学校、養成所及び養成施設等の対応について(周知)」, 令和2年2月28日付け事務連絡(2021/3/5 閲覧), <https://www.mhlw.go.jp/content/000605026.pdf>
- 2) 厚生労働省「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う医療関係職種等の各学校、養成所及び養成施設等の対応について」, 令和2年6月1日付け事務連絡(2021/3/5 閲覧), <https://www.mhlw.go.jp/content/000636146.pdf>
- 3) 文部科学省「看護学教育モデル・コア・カリキュラム～「学士課程においてコアとなる看護実践能力」の修得を目指した学修目標～」, 大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会, 平成29年10月(2021/3/15 閲覧) [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/koutou/078/gaiyou/\\_icsFiles/afldfile/2017/10/31/1397885\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/078/gaiyou/_icsFiles/afldfile/2017/10/31/1397885_1.pdf)
- 4) 厚生労働省「高齢者介護施設における感染対策マニュアル 改訂版」, 2019年3月(2021/3/15 閲覧) <https://www.mhlw.go.jp/content/000500646.pdf>
- 5) 前掲載4)
- 6) 国立感染症研究所ホームページ「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)2020年12月現在」(2021/3/16 閲覧) <https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/>

- ka/corona-virus/2019-ncov/2547-idsc/iasr-topic/10175-492t.html
- 7) 沖縄県立中央病院感染症内科「高齢者施設における新型コロナウイルス感染症への対応指針」2020,3,16, (2021/3/16 閲覧)  
[http://plaza.umin.ac.jp/ihf/others/elderly\\_facility.pdf?fbclid=IwAR2zNyAiJ5JE8pAD3tV-NGZOYcreAcaPt8Mq7E1n1Lyynu6vZVhkl0Mk1Rk](http://plaza.umin.ac.jp/ihf/others/elderly_facility.pdf?fbclid=IwAR2zNyAiJ5JE8pAD3tV-NGZOYcreAcaPt8Mq7E1n1Lyynu6vZVhkl0Mk1Rk)
- 8) 厚生労働省「地域包括ケアシステム」(2021/3/15 閲覧)  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi\\_kaigo/kaigo\\_koureisha/chiiki-houkatsu/](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiiki-houkatsu/)
- 9) 四條畷市ホームページ「地域包括ケアシステム」(2021/3/15 閲覧)  
<https://www.city.shijonawate.lg.jp/site/kourei-hukushika/20471.html>
- 10) 大阪府社会福祉協議会「「誰もが安心して暮らせるまちづくり」を目指した住民主体の生活支援サービス・活動」(2021/3/15 閲覧)  
[https://www.osakafusyakyoo.or.jp/chiiki-g/pdf/h29\\_002.pdf](https://www.osakafusyakyoo.or.jp/chiiki-g/pdf/h29_002.pdf)
- 11) Margaret A. Newman: Transforming Presence The Difference That Nursing Makes: 2008, 遠藤恵美子監訳: マーガレット・ニューマン変容を生み出すナースの寄り添い—看護が創り出すちがいがい, 108-113, 医学書院, 2009.
- 12) 向後千春: 世界一わかりやすい教える技術, 178-189, 株式会社技術評論社, 2020.
- 13) 四條畷市ホームページ「皆さんが主役! 新聞2号「生活支援コーディネーターの仕事」(2021/3/15 閲覧)  
<https://www.city.shijonawate.lg.jp/uploaded/attachment/11671.pdf>
- 14) Ray Oldenburg : THE GREAT GOOD PLACE, 1989, 忠平美幸訳: サードプレイス—コミュニティの核になる「とびきり居心地よい場所」, 64-96, みすず書房, 2013.
- 15) Stav Shapira, Daphna Yeshua-Katz, Ella Cohn-Schwartz: A pilot randomized controlled trial of a group intervention via Zoom to relieve loneliness and depressive symptoms among older persons during the COVID-19 outbreak, Internet Interventions, 1-6, (24) 2021.
- 16) M. BERG-WEGER, J.E. MORLEY: LONELINESS AND SOCIAL ISOLATION IN OLDER ADULTS DURING THE COVID-19 PANDEMIC: IMPLICATIONS FOR GERONTOLOGICAL SOCIAL WORK, 456-458, The Journal Of Nutrition Health & Aging, 24 (5), 2020.

